

自然と命と農のお話会

千葉市緑区 米澤美紀

大椎小学校とあすみが丘小学校で毎年行われている田んぼの授業。子ども達は田植えをし、草を取り、稲刈りをし、収穫したお米を炊いていただきます。そこで指導してくださっている金谷さんは、田作りの作業を通して様々なことを教えてください。お米を収穫するまでにはたくさんの小さな命を犠牲にしていること、稲についている籾の一粒一粒には命が宿っていること、そして、その命をいただいて私たちが生かされていること。…そう、田んぼで行われているのは「命」の授業でもあるのです。

田んぼでお話してくださる内容を、子どもたちだけではなく多くの大人たちにも聞いてもらいたいと思い、金谷さんのお話会をこれまで2回開催してきました。参加された方々から感想文をいただきましたので、ご紹介します。

★「田んぼボランティアとお話会に参加して」

多くの子どもたちと同様に、私にとって初めての田んぼ作業に少しわくわくしながら参加させていただきました。

5月に行なった田植えでは、とても小さな苗で金谷さんも「いつもの年よりかなり小さい苗です」とおっしゃっていました。泥が足にからみつく感触を子どもたちは楽しみながらいねいに植えているのが印象的でした。

そして、7月。田植えから2ヶ月でしたが、あんなに小さかった苗が立派に成長していました。子どもたちと一緒に草取りをしたのですが、刈った草を田んぼにまいて肥料にするということに驚きました。雑草イコール排除しなければならないものと思っていたからです。お話会での「草や虫を敵としない」という金谷さんのお話を聞いてみると、なんて人間中心主義だったかと思ひしらされました。

10月は待ちに待った稲刈りでした。稲穂は黄金色に色づき重たそうに垂れていました。カマを持つ子どもたちと一緒にまとまった稲を刈っていくのですが、やわらかそうに見える稲も刈るのが結構難しく、苦心しました。でも、ザックザックと刈っていくと子どもたちもうれしそうでした。刈り取った稲を束にして子どもたちの肩にかけて、その姿を見送りながら、稲刈りが終わった田んぼを目にして、本当に感無量でした。

11月、学校のアリーナで脱穀をしました。水分を含んで重たかった稲が、カラカラに乾いていました。千歯こきや足踏み脱穀機など、初めて見る道具や機械に恐る恐る手をだしたものの、案外難しくて、子どもたちのほうが好奇心も手伝ってか、案外、器用に扱っていたように思えます。

子どもたちと一緒にこのように米づくりの一連の作業に携わり、無事に収穫することができたのも、金谷さんをはじめYPPのみなさん、学校の先生方、ボランティアの保護者のみなさんの協力があったことと思います。田んぼボランティアやお話会に参加して本当によかったです。(AK)

★「大椎っ子田んぼとお話会」

今年度、娘と大椎っ子田んぼでお世話になりました。生き生きとした表情の子、恐る恐る田んぼに足を入れる子、いろいろな子どもたちがいながら一生懸命にお話を聞いて取り組む姿は、稲の成長に通じるものがあるなあと感じました。

先日のお話会では、金谷さんが取り組まれている自然農についてお話いただき、自然の営み、命の営み、宇宙のことから草や虫さんのことまで、謙虚な気持ちで聞かせていただきました。目からウロコだ！と思ったことでも、元を辿れば本来あるべき姿だと考えさせられ、ずっと頭に入った気がいたします。手を加えず、生育のお手伝いをする、変化のお手伝いをするということは、命を育てる子育ても同じだと、何だかほんわか優しい気持ちになれたお話会でした。

その後、金谷さん手作りのお味噌でお味噌汁を作っていたら、「お味噌のいい香りがする〜！」と娘が寄ってきて、うれしい気持ちになりました。

庭の隅に、金谷さんから教わった自然農に近い形で、早速、ソラマメの苗を植えてみました。春先を楽しみにのんびり過ごしたいと思います。丁寧なご指導、貴重なお話をどうもありがとうございました。(Y.K)

★「お話会に参加して」

金谷さんのお話は、とても情報量が多くて、たくさんの言葉の中に、数字や化学式や初めて耳にする単語などがきらきらと瞬いているように感じます。それは、豊かな知識と深い洞察に満ちた世界だと思うのですが、残念ながら記憶力のあまりよくない私の頭の中には、長く留まることができなくて、どんどん消えていってしまいます。でも、全部の言葉が通り過ぎた後には、気の遠くなるような広大な宇宙の中のちっぽけな地球のことや、今こうして、その地球という星の上で同じ時間を生きている、たくさんの命たちのことや、その命を育んできた風や雨やおひさまのことが、しっかりと心に残っているのです。頭の中は相変わらず空っぽなのに、何だかとても不思議です。(T. I)

★「魅力的な自然農 ——『自然と命と農のお話会』に参加して——」

10月23日、田んぼボランティアの作業の時にいただいたチラシを見て、金谷さんのお話会に参加しました。ご自身がされている自然農についてのお話から始まりました。自然農は、「足さない、引かない、耕さない」のだそうです。つまり肥料や農薬は入れず、雑草や虫もとらず、自然のままの土地で農作物を育てます。田畑を調和した完結した世界だと感じられると、それは宇宙観にまで広がっていきます。

私が特に面白かったのは虫の死骸やフンも大切な肥料になるというお話です。中でも甲虫の死骸のキチン質はお米のうまみに影響するとうかがってとても驚きました。益虫・害虫なんて概念はなく、雑草という言葉もない——自分が常識だと思っていたことが覆されました。そして、人間だって自然の一部なのに、いかに普段忘れていることが多いか考えさせられました。

金谷さんの含蓄のあるお話から、他の参加者の皆さんとの話も広がり、いつしか子育ての話題に。子育ても農業に似ている？なんて考えさせられたりもしました。そして、——農薬や化学肥料を使って育てられた一見健康そうな野菜たち。——農薬のついた野菜を食べても一見元気そうなバツたち。という言葉聞いた時に、野菜やバツは私たち自身かもしれないと気付き怖い気持ちになりました。色々勉強になり、示唆に富んだ、充実した時間を過ごせました。私たちの食の基本でもあるお米や農業のことを子どもたちと一緒に学びたいし、学ばないともったいないです。また機会があればぜひ参加したいですし、他のお母さん達にも是非お勧めしたいと思います。(M.Y)

次回は下記の日程で開催する予定です。お話を聞くだけでなく、食の問題、環境の問題などについて一緒に考えや思いを分かち合いませんか？ 子どもたちの未来を守りたいと思うみなさんと、ゆるやかにつながっていただけたいと思います。

日 時：3月26日(水) 10:00~12:00 金谷さんのお話

12:00~13:30 お昼をいただきながらお話ししよう

場 所：ニコニコレストラン(タイ風ベジタリアンレストラン) 大網白里市大網1993

参加費：1500円(ランチ代含む)

*送迎が必要な方、お話会のみ参加希望の方、申込の際にお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ：

ちば環境情報センター 043-223-7807 企画・担当 YPP小山町 米澤

E-mail: hello@ceic.info

○金谷さんプロフィール○

ネットワーク技術者兼プログラマーとしてコンピューター関係の職につくも、農薬や肥料を用いず、草や虫を敵としない命あふれる自然農との出会いから農業に転向。以来、お米や野菜を育てながら農を営む。また、原料にこだわり、手間ひまをかけた手作りのお味噌はファンが多い。ちば環境情報センター理事・運営委員。



里山たんけんレポート

第 169 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2014年2月2日(日) くもり・小雨

今日の観察はニホンアカガエルの産卵が始まったので卵塊の観察、鳥、冬芽と葉痕の観察と欲張ったものになりました。

まずはニホンアカガエルの卵塊を探しました。YPP田に5個、大塚田に13個の卵塊がありました。まだ産み始め、これから増えることでしょう。谷津を巡るコースに戻ったところノスリが斜面林の杉にとまりずーと下を見ていました。下の畔にはモグラ塚がいっぱいあるところですよ。モグラ塚を見張っていたのでしょうか。観察会参加者全員がじっくりスコープで見ることができました。タカといっても丸顔でふっくら、柔和な顔をしていて可愛いという声も上がりました。今年は鳥の姿が少ないのですが今日はツグミ、カケス、ベニマシコ、シメなど14種に出会いました。谷津を巡りながらニワトコ、クズなどの冬芽と葉痕でこどもの可愛い顔に見えるもの面白い顔に見えるものなどを探しながら歩きました。モグラ塚があちこちで目立ちました。畔の水を含んだ土の上にはイタチの足跡なども見られました。道端にはホトケノザが咲き、土手のオオイヌノフグリは晴れなかったため蓄状態でしたがいっぱい蓄を付けていました。春を感じる事が出来た観察会でした。

(参加者 大人8名、高校生4名、こども2名； 報告・写真：網代春男)



谷津田を見下ろすノスリ



ニワトコの冬芽

2月15日に予定されていた下大和田 YPP「アカガエルの産卵調査と木の名札づくり」は大雪の影響で中止となり、予定していた作業は3月の観察会でを行うことになりました。

第 105 回 小山町 YPP「自然観察とあぜの手入れ」

2014年2月23日(日) 晴れ

2度にわたる大雪で谷津の斜面林の杉や竹があちこちで折れて倒れてしまいました。最初に大雪の影響で田んぼやりんどう広場に倒れてきた竹や木を片付けました。竹は林に入って切りましたが、密生した竹が複雑に絡みながら折れているので、切った竹を引っ張り出すのは容易ではありません。「ヨイショ～、ヨイショ～！」と掛け声を出してみんなで力を合わせて引っ張りました(右の写真)。切った本数はかなりになり、なかなか骨の折れる作業でしたが、その甲斐があってだいぶスッキリしました。雪で崩れた田んぼのあぜの補修や泥や落ち葉がたくさん貯まってしまった水路の清掃も行いました。

最後に田んぼの周りを散策して春間近の谷津の様子を観察しました。小山としては例年になく早く始まったニホンアカガエルの産卵についてはこの一週間はずつと寒かったために新しい産卵はなかった様子でした。ユキヤナギは硬い冬芽の殻を脱ぎ捨てて、銀白色のふわふわの花穂を出しており、春の訪れが近いことを感じました。



(参加者：大人4名；報告：高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 2月 2日 いくつかの田んぼにニホンアカガエルの卵塊を確認。新鮮な卵は昨晚、少し泥をかぶった卵塊は先週産卵したものと考えられる。小山では記録的に早い産卵（高山）。
- 2月 9日 大雪のあとの谷津。積雪は40センチくらいあり、雪の重みでたわんだ竹が折れる音が谷津に響いていた（高山）。
- 2月16日 仲睦まじいモズのカップルを目撃。上空をノスリが飛翔（高山）。
- 2月23日 今シーズン例外的に数が少ないツグミの姿をあちこちで見る（高山）。

下大和田

- 2月 2日 ニホンアカガエルの産卵が始まった。YPP 田に5個、大塚田に13個、下大和田全体で27個。30日下見時にはなかったのに30日と31日の晩に産んだと思われる（網代）。
- 2月15日 大雪、大雨の後の谷津、あちこちで木や竹が倒れていた。クサシギ、セグロセキレイ、モズ、ハクセキレイのカップルを目撃（平沼）。
- 2月19日 オオタカが林縁から飛び立った。アカガエルの卵塊は269個になった（網代）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第158回「味わおう！春の野草」・第159回「苗代づくり」(兼、第2回米づくり講座)

早春恒例の野草を食べる会です。みんなで谷津を散策して野草を摘み、天ぷらやおひたしにして食べます。春の味わいを楽しみにぜひ、お出かけください。そして、今年の米づくりの第一歩、苗代づくりをします。田んぼに作った苗代にモミをまきます。

日時： 野草を食べる会 2014年3月22日（土）10～14時

苗代づくり 2014年4月5日（土）10～14時 *いずれも小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのうちばフラワーバスで45分千葉駅発8:53、9:08、9:23など）料金は520円

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、野草を食べる会は加えて、お椀・お皿・おはし。

参加費： 野草を食べる会・・・小学生以上一律500円（食材費を含む特別料金です）、小学生未満無料

苗代づくり・・・ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

▼第171回 下大和田 4月の谷津田観察会とごみ拾い

ヤマザクラ、フデリンドウ、タネツケバナなどたくさんの花が咲きます。チョウや魚も動き出します。久しぶりにたくさんの生物と出会える観察会です。

日時： 2014年4月6日（日）10～12時 ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00（下大和田 YPP に同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

▼第106回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

米づくりのシーズンを前に田んぼのあぜの手入れをします。

日時： 2014年3月21日（金・祝）10:00～12:30、小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡など。

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター

編集後記 2月の大雪で千葉の谷津では斜面林の竹や杉が折れている光景をあちこちで見かけます。雪の重さに耐えられなかったようですが、よく見ると倒れているのは乱雑に密生している竹だったり、生育が悪かったり病気があったりする杉の木が多いようです。手入れが行き届かない林が特に被害を受けているということです。それ故に折れた木々はそのまま放置され続けることになり、荒れゆく里山の現状を強調しているようで悲しいものを感じます。

（高山 邦明）